



2010年3月期第1四半期 業績概要

2009年7月30日

アンリツ株式会社
社長 戸田 博道

東証第1部:6754
(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や
競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引
き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 2010年3月期第1四半期の業績の概要
- 2010年3月期中間期、通期見通し
- 中長期の見通し

当社の事業セグメントの呼称と事業内容

1

セグメント	サブセグメント	事業内容	担当事業部門の主な所在国
計測器	NGNおよびインフラ関連分野	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線ネットワークおよび無線インフラ敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど	日本・米国・デンマーク・イタリア
	携帯端末分野	携帯電話端末開発・製造・保守用テスト	日本・英国・米国
	汎用分野	無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど	米国・日本・英国
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど	日本
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など	日本、タイ
その他		精密計測、光デバイスなど	日本

サマリー(1)



第1四半期業績(連結)サマリー

(単位:億円)

	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	217	168	△ 49	△ 22%
売上高	198	143	△ 55	△ 28%
営業利益	△ 9	△ 9	0	-
経常利益	△ 8	△ 11	△ 3	-
税引前当期純利益	△ 21	△ 9	12	-
当期純利益	△ 23	△ 18	5	-
フリーキャッシュフロー	24	19	△ 5	△ 21%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

サマリー(2)

A

営業概況

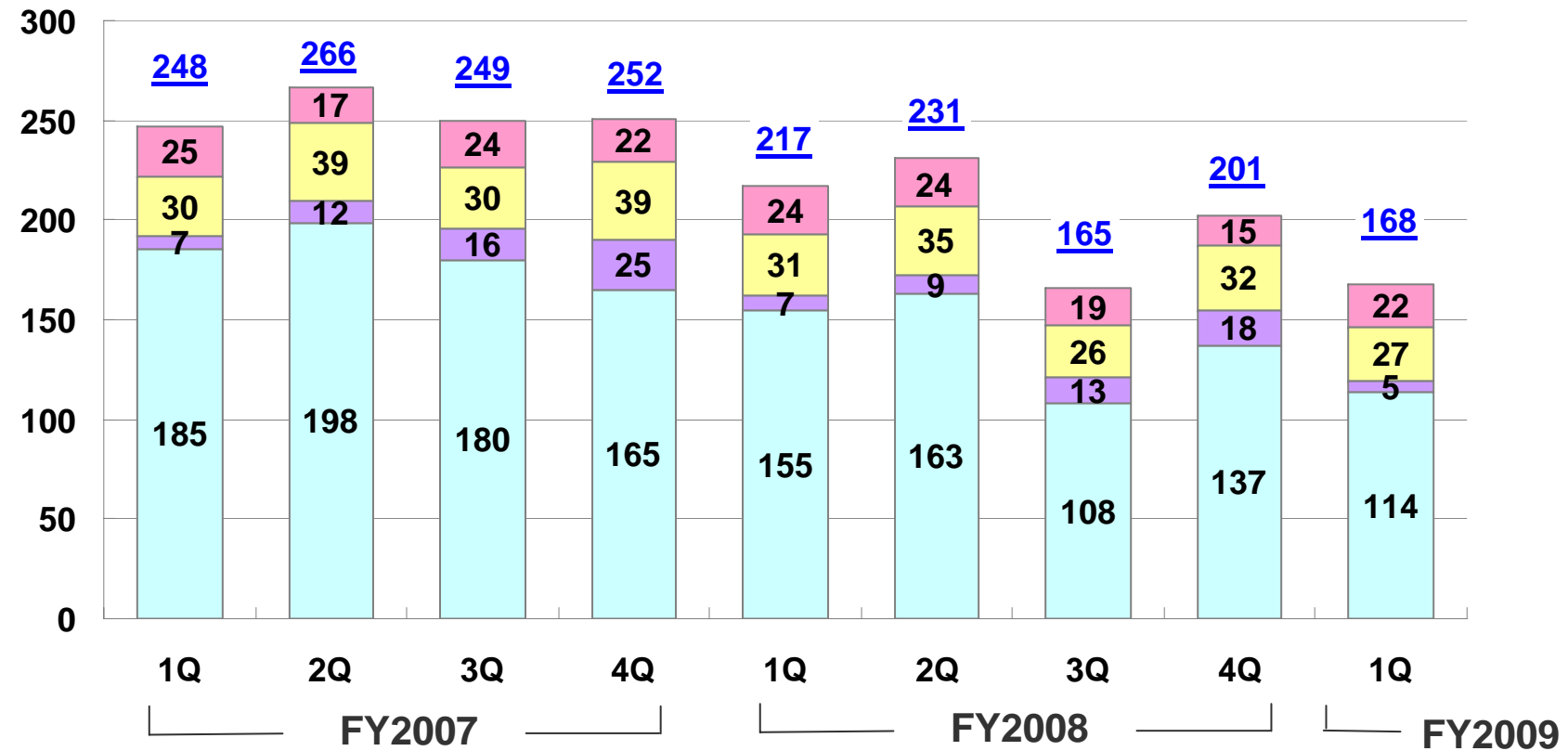
計測器	顧客の設備投資抑制により、想定通り厳しい事業環境 LTE ^{注)} 開発用計測器の引合いは継続 電子部品向け汎用計測器の需要回復には時間が掛かる見込み 日本: 汎用計測器の需要は低調、 携帯端末開発用計測器需要は3GからLTEへの移行期 米州: 保守用計測器を軸に底打ち傾向 EMEA: LTE開発用計測器需要は堅調 サービスアシュアランス事業の受注は計画通り アジア: 通信インフラの整備および汎用分野は底堅い計測需要 中国: 3Gインフラに関わる入札はあるものの、立ち上がりに遅れ
情報通信	投資案件の延伸などによる進捗遅れ
産業機械	海外は若干設備投資抑制があるものの、全体として計画通り
その他	光デバイスはブロードバンド化により需要が好調

注) LTE (Long Term Evolution) : 次世代携帯電話の通信規格。

事業別受注推移(連結)



- その他
- 産業機械
- 情報通信
- 計測器



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業利益(連結)

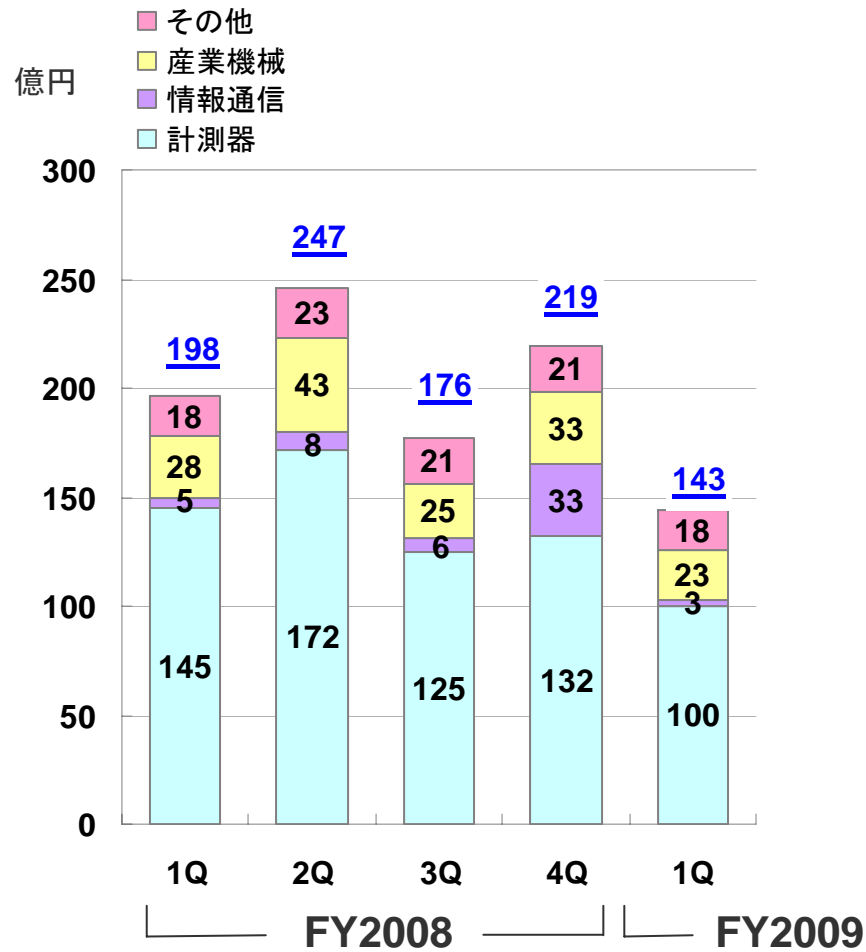


(単位:億円)

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測器	売上高	145	100	△ 45	△31%
	営業利益	△8	△10	△ 2	-
情報通信	売上高	5	3	△ 2	△51%
	営業利益	△3	△4	△ 1	-
産業機械	売上高	28	23	△ 5	△20%
	営業利益	0	0	0	156%
その他 (含:内部 消去)	売上高	18	18	0	△3%
	営業利益	2	6	4	173%
合計	売上高	198	143	△ 55	△28%
	営業利益	△9	△9	0	-

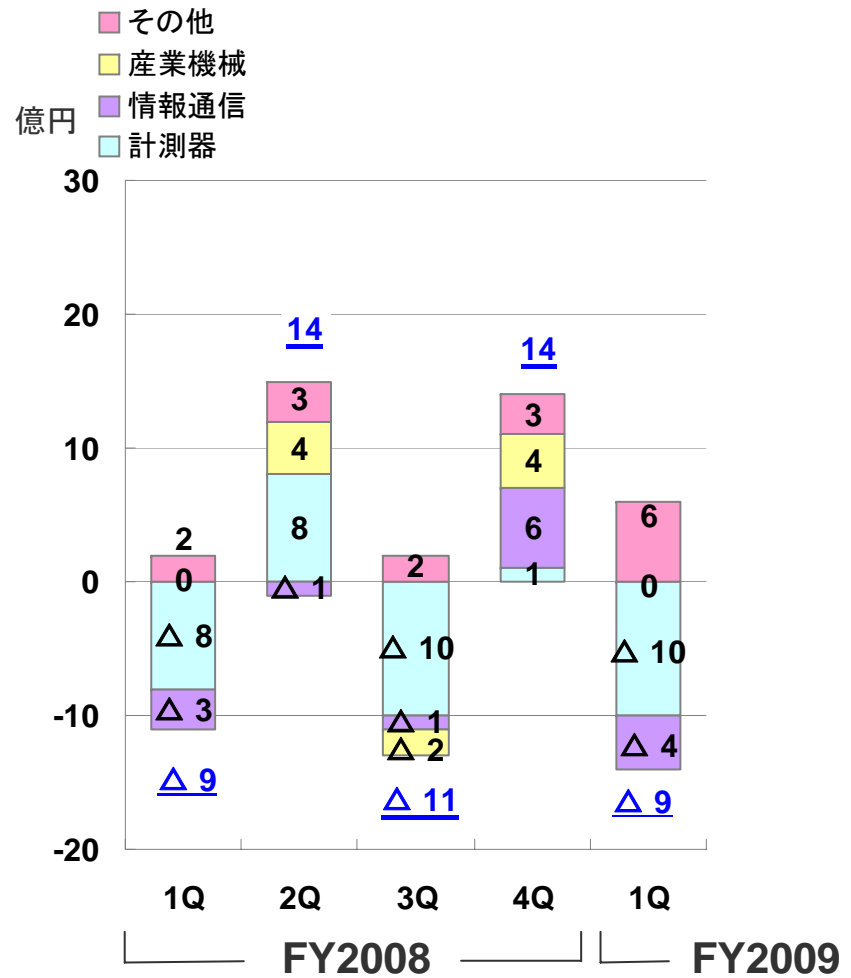
(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業損益推移(連結)



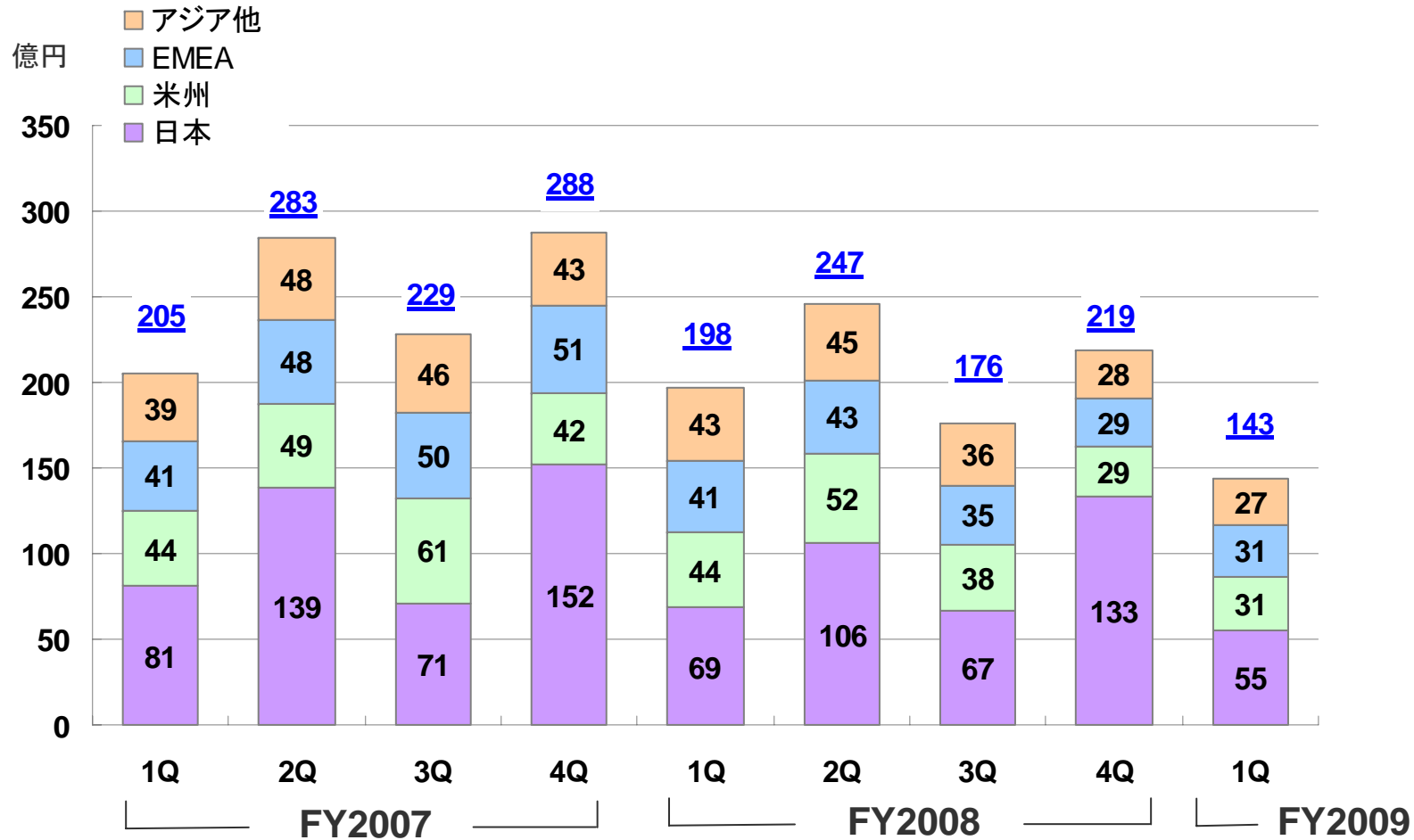
連結売上高

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



連結営業利益

地域別売上高推移(連結)



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

営業外・特別損益概要(連結)



(単位:百万円)

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績
営業利益		△ 875	△ 867
	金融収支	△ 132	△ 110
	為替差損益	170	△ 139
	その他	59	48
営業外損益計		97	△ 201
経常利益		△ 778	△ 1,068
	投資有価証券売却益	-	140
	新株予約権戻入益	35	-
	投資有価証券評価損	△ 34	△ 1
	たな卸資産評価損	△ 1,358	-
特別損益計		△ 1,357	139
税引前利益		△ 2,135	△ 929

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

キャッシュフロー概要(連結)



第1四半期

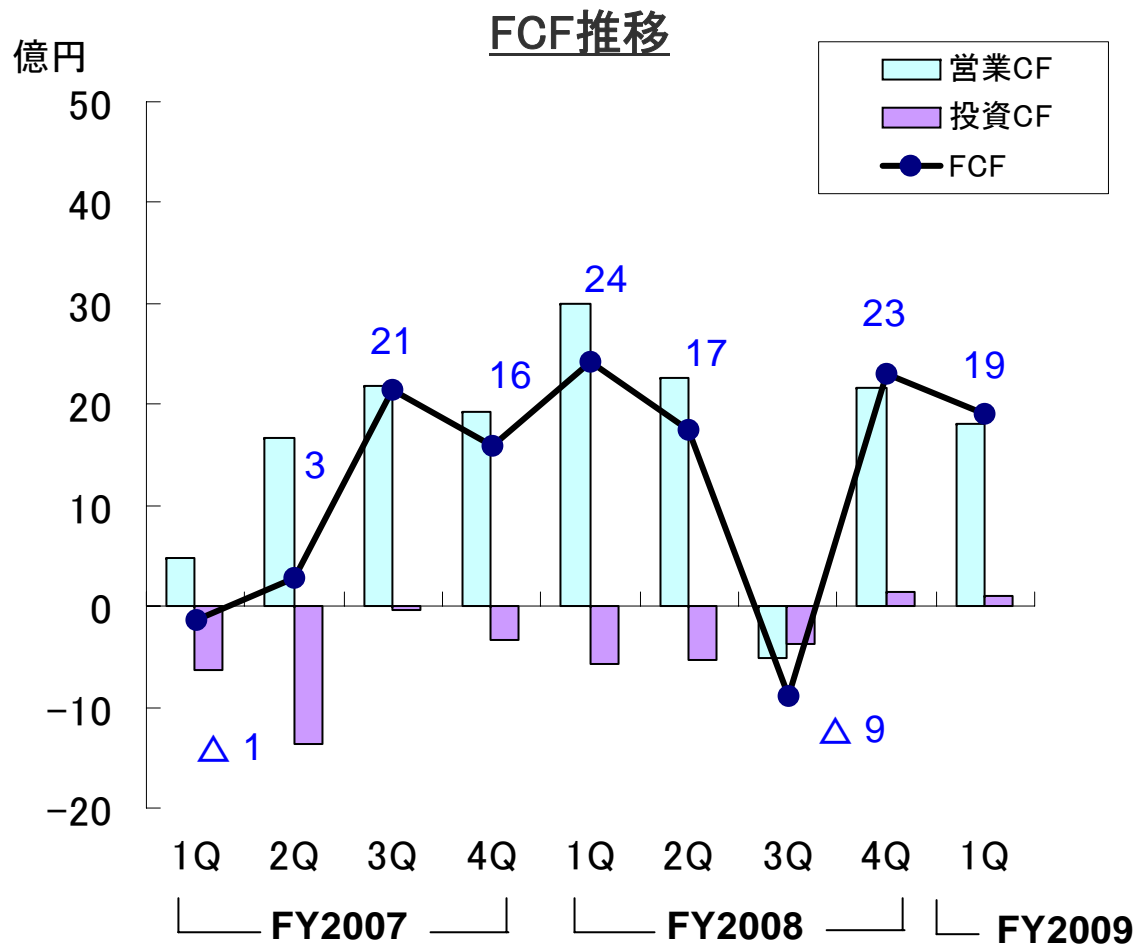
- ①営業CF: 18億円
- ②投資CF: 1億円
- ③財務CF: 25億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 19億円

現金同等物期末残高

231億円



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2010年3月期第2四半期(累計)、通期の見通し(連結)

(単位：億円)

		第2四半期連結累計期間		通期	
		FY2008実績	FY2009予想	FY2008実績	FY2009予想
売上高		444	350	839	760
営業利益		5	△3	9	22
経常利益		2	△9	2	10
当期純利益		△16	△10	△35	5
計測器	売上高	318	240	574	510
	営業利益	1	△2	△8	13
情報通信	売上高	14	10	52	50
	営業利益	△5	△8	1	0
産業機械	売上高	72	60	130	120
	営業利益	4	2	6	4
その他	売上高	41	40	83	80
	営業利益	5	5	10	5

配当：無配予定

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート：1米ドル=90円

中長期の見通し

ハードウェアからサービスへ



通信規格に対応した
計測ソリューションの提供

サービス・アプリケーションに
対応したソリューションの提供

2G

3G/3.5G

LTE(3.9G)/4G

オールIPネットワーク

電話
メッセージ



映像
インターネット



動画、テレビ
高速インターネット



高速性と
多様なアプリケーション



サービス・アプリケーション
の拡充



2000

2005

2010

2015

容量
(bit/s) 64k

384k

2.4M

14M

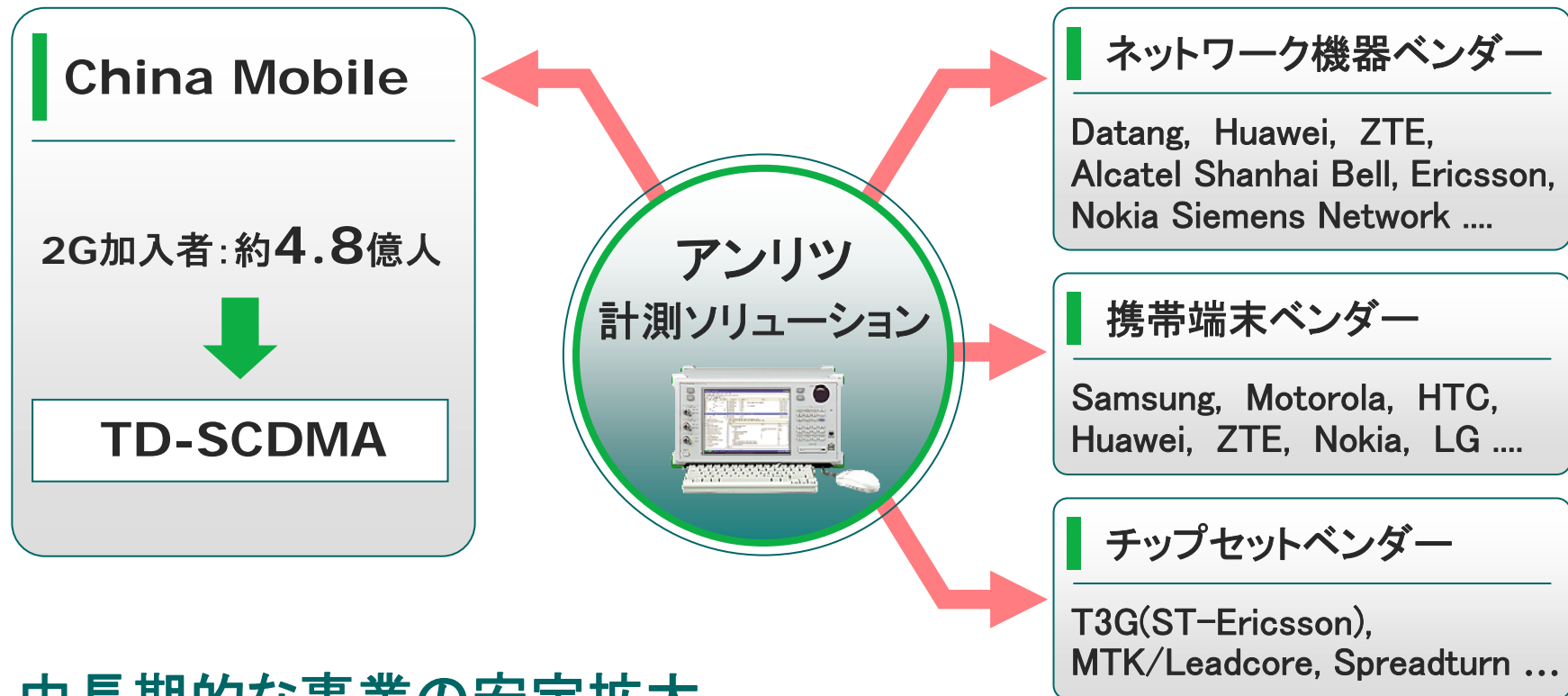
300M

Discover What's Possible™

FINANCIAL RESULTS FY2009 1Q

Anritsu

計測器事業：中国3G TD-SCDMAの事業機会



中長期的な事業の安定拡大



計測器事業：LTE(3.9G)の市場機会



- 無線端末で光ファイバー並みのスピード
- ネットワークはIP化
- 3G/3.5Gから3.9Gへ世界中で徐々に移行
- 今後10年以上続くビジネスの開始

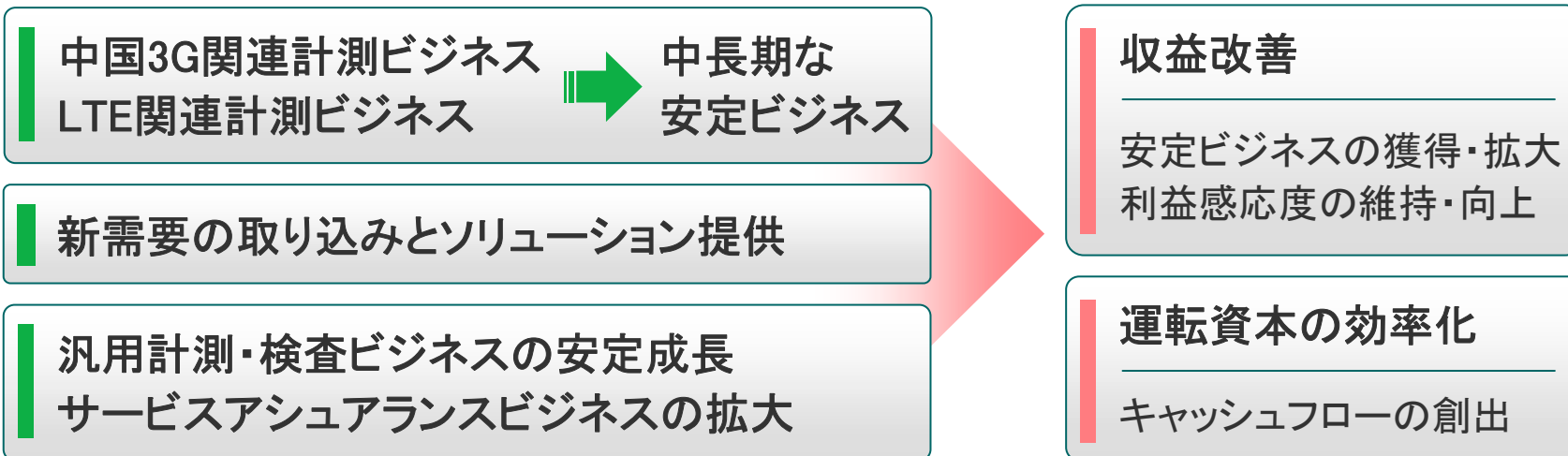


	2010	2011	2012	20xx年
日本	ドコモ イーモバイル	ソフトバンク	KDDI	<div style="text-align: center;"> <p>LTE普及</p> <p>本格化</p> <p>各種報道記事より</p> </div>
米州	ベライゾン	AT & T	+++	
欧州	テリアソネラ	+++	+++	
アジア	K T, S K	中国移動	+++	

中長期の取り組みと目標



財務体質の安定



目標

営業利益率：10%

ROE：10%

Anritsu

Discover What's Possible™